



長野県民生児童委員だより

つなぎ

Vol.108

2012 Spring

平成24年4月1日

発行人 長野県民生児童委員協議会
会長 百瀬 弘

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)



災害特集第3弾

地域福祉の発展が防災の鍵

「民児協会長研修」の和田要熊本学園大学教授の講演
「災害時避難支援について」より

Contents

特集 地域福祉の発展が防災の鍵	2
訪問① 軽井沢町「研修を積極的に」	4
訪問② 塩尻市洗馬地区「住民自治が生きる」	5
ひろば／上松町・飯田市・小川村・東御市	6
つなぎ人「長野県助産師会会長・池上道子さん」	8

地域福祉の発展が 防災の鍵



※平成23年9月に松本・長野で行われた「民
児協会長研修」の和田要熊本学園大学
教授の講演「災害時避難支援について」
「民生委員・児童委員のちから」を要約
したものです。

東日本大震災、長野県北部地震から1年
が経ちました。

「民生委員・児童委員発 災害時一人も見
逃さない運動」は、民生委員制度創設90周
年を記念し、全国一斉の活動として平成18
年から取り組んでいる活動です。

「要援護者台帳」を作るねらいは何でしょ
うか。

「災害福祉マップづくり」がハウツーで終
わっていないでしょうか。避難訓練をする
目的は何でしょうか。

まず「このか」を優先させよう

東日本大震災の時、「津波でんでんこ」とい
う教訓がありました。明治三陸地震では「津波
が来たらでんでんこに高台に逃げろ」。昭
和三陸地震では「自分だけが助かってもそのこ
とは非難されない。生き残った者が責任を果た
す」今回体験した震災から学んだことを後世に
ぜひ残していただきたい。次の世代たちがどう
生きていくか、どう立ち直っていくかという減
災教育につながっていきます。災害時にはむき
だしの「いのち」がありました。「目の前で人が
流されていく、手を引いたけれども助けられ
なかつた」私たちは実に無力でしたが、た
くましさもあり、日本人としての社

会規範が崩れない生き方もあり

ました。そのなかで「生きる力とはなんだろう」
「福祉教育・減災教育の中で『いのち』を語っ
てきたらどうか」と問いかけています。

「災害時要援護者」とは 誰かをしっかり把握する

災害時要援護者とは、障がい者、高齢者、外
国人等情報の入手や自力での避難が困難で災害
時対応能力の弱いもの（旅行者も含む）です。
しかし実在する一人一人が災害時要援護者に該
当するか否かの判断は容易ではありません。な
げならば、災害時要援護者であるか否かは本人
の状態及び周囲の状況を総合的に判断しなけれ
ばならないからです。そしてマップに載せる人
かどうかはマップ見直しの時期に、生活の不便
さや困難さを抱えている人を把握するというこ
とです。

- ・ 何が一番困っているか。
 - ・ 自分が困っている課題に対してどんな努力を
し、またそのために何を望んでいるか。
 - ・ 地域の誰と交流があるか。
 - ・ 地域で所属している組織や団体があるか。
 - ・ 仲間と寄り集まる場所はどこか。誰と助け合っ
ているか。
 - ・ 家族関係や近所付き合いはどんな程度か。
 - ・ 誰が支援してくれているか。また本人が頼り
にしている人は誰か。
- 実際、震災の時には、ボランティアが避難所



塩尻市洗馬太田地区「第2回元気広場」での「助け合い安全マップづく
り」。小学校高学年と地域のお年寄りで共同制作する様子。

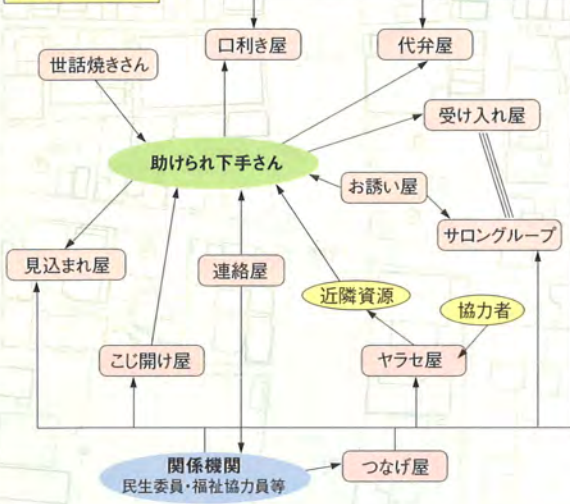
で「何かお困りのことはありませんか」とたず
ねたら「何も困っていません」との答えだった
といえます。もう少し聞き方を変えてみたらど
うでしょうか。「お近くで困っている人がいま
せんか」と。これを『受援力』といいます。ど
う見ても地域で困っている人を周りに聞いてみ
るのです。日本人には「助けられ下手さん」が
多いといわれます。でも助けられ下手の人でも
必ず誰かにつながっています。民生児童委員や
関係機関はこのような構図を一人一人把握して
いることが大事です。

キーパーソンを見いだすには、 食生活を聞く

隣近所での関係において物のやり取りにかか



人材マップ



和田先生会長研修資料より (出所：木原孝久氏より)

「何を食べるか(栄養)」「どう食、食べるか(調理)」「どこで食、食べるか(場所)」「誰と食、食べるか(関係・つながり)」などです。するとその人のつながりを見いだすことができ、そこから世話役を探すことが大事になります。そして、支援者の普段の地域活動はどんな内容なのか、地域の要援護者に対しどのように支援の手が差し伸べられているか、活動や問題解決に対するネットワークはどんなものが必要かなど、季節や時間を想定して検討します。

マップづくりでは、当事者を色分けして考えますが、区分けすることなく入り混じっていることが資源になります。困ったことの解決よりも、もっと豊かにするにはどうするか。住民の活動にのること(地域で活動している組織・

わるキーパーソンが重要となります。どうやってそのキーパーソンを見いだすかという、要援護者の食生活を聞くこと。たとえば「何を食、食べるか(調理)」「どこで食、食べるか(場所)」「誰と食、食べるか(関係・つながり)」などです。するとその人のつながりを見いだすことができ、そこから世話役を探すことが大事になります。そして、支援者の普段の地域活動はどんな内容なのか、地域の要援護者に対しどのように支援の手が差し伸べられているか、活動や問題解決に対するネットワークはどんなものが必要かなど、季節や時間を想定して検討します。

「災害時一人も見逃さないため」に作っているマップは、いざという時に機能するか考えておく必要があります。要援護者については地域に暮らす一人一人の力を信じることです。それでも課題を抱えている現実があり、民生児童委員活動にあたり、両方を見直してもらいたい。地域のもつ福祉力と、福祉がもっている地域力との合成した力が地域の力量になります。

一人も見逃さないための地域活動にあたり、要援護者登録、マップづくり、自主防災組織などに、住民が参加することで住民自身の意識が変わるといことが大事です。参加人数を増やすだけでなく、地域住民が共感する能力をいかに高めるかの仕組みを意識的にやるのが大事です。たとえば、認知症の人が安心して徘徊できるような環境を底辺から広げなければなりません。

マップや台帳を直接手にして支援活動を行うのではなく、マップづくりの過程で自然と地域の要援護者の情報が頭の中に入っていることと最新の情報が重要であり、近所での協力、マップに基づく避難訓練、マップの共有(管理)、マップの更新へとつなげていきます。

災害時要援護者というのは「日頃から要援護者」です。日常からの地域づくり、顔と名前がわかる関係づくりが必要です。

住民の意識改革が地域福祉の発展へ

作成過程での多くの気づきが重要

団体などを巻き込む。つまり当事者の生活を住民の営みに振り向けることです。また助け手については、できれば当事者が見込めるように導きます。

会長研修



和田 要氏
熊本学園大学
社会福祉学部教授



平成23年9月28日(水)に開催した長野会場の様子

演題「災害時避難支援について」

それには、マップだけに頼らず一つ目は地域で出合いの場を作ること。二つ目は協働の場を作る。三つ目は協議の場を作る。これらが福祉の自給率を高めることになります。

Q&A

Q 担当地区に「助けられ下手」どころか「助けられ拒否」をする人がいる。周りの人と交流することなく電気・水道も使っていない。周囲はかかわろうとするが拒否される。どうしたら良いか。

A いかに信頼関係を作るかということ。郵便配達員などどこかにつながっていると考える必要がある。拒否する人からすれば善意ではなく大きなお世話だと思っている。大きなお世話の世話というのは世の話であり、なにかしてあげようという話ではなく世の話を聞きに行く。1回ではなく何回もしに行く。その人にとって興味のある話があるかもしれない。アプローチが必要で近づく手がかりになる。たとえば台風が近づいた時に声をかけてみる。引いた後どうだったかと2回アプローチしたら少しずつ心を開いてくれたという事例もあった。

(9/28長野会場グループ別討議の発表より)

訪問

民児協 だより



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーと各ブロックの委員から活動を通して感じたことやエピソードを率直に寄稿していただく「ひろば」コーナーです。

軽井沢町民生福祉委員協議会



▲前列右から3人目が櫻井会長

る世帯、住民票があっても居住実態のない世帯、あるいは住民票を東京などに置いたまま町に居住する世帯などが混在し、地域の実態を知ることが困難です。特に夏のピーク時は地域内に一体誰が住んでいるのかも分からなくなってしまう

軽井沢町では民生児童委員、主任児童委員に、法務大臣から委嘱の人権擁護委員を加えて「民生福祉委員」と呼び、全員で協議会を結成しています。そのため名称は「民生福祉委員協議会」で、地区数36、委員数46人の大所帯となっています。民生児童委員に、福祉と人権の視点も入れることで、多角的な活動につながるという町の方針によるものです。地域住民には日常生活の場でも、夏の避暑地であり別荘地としての面も大きいのが軽井沢町の特徴です。民生福祉委員にとって最大の課題もこれで「別荘なのか、暮らしているのか分からない」と、櫻井朝教会長は表情を曇らせます。元々の住民で区にも加入してい

「つなぎ役」に徹するための研修を積極的に。地域の実情把握が課題。

います。民生福祉委員の役割を「つなぐこと」と、きっぱり断言する櫻井会長ですが、つなぎなければならぬ人が明確でないというジレンマがあります。「訪問しても『ウチはいい』と言われたらそれまで。団塊世代が間もなく高齢者になる中、どう備えるか」。区に加入して欲しい、それが無理でも、せめて要援護者支援台帳への登録だけでもして欲しい、というのが民生福祉委員共通の願いです。浅間山噴火、豪雨災害、台風被害が進路によっては想定される地域。緊急時のキット持参を計画するなど、訪問の工夫で突破口を見つけないとと考えています。

32歳から民生福祉委員になり、現在55歳で会長2期目の櫻井さん始め現役世代の委員が多く、活動できる時間が限られています。力を入れているのは、つなぎ役をきちんと果たすために必要な知識の蓄積で、認知症サポーターの先進的な若狭町視察、越前海岸では自殺に関して学ぶなど、研修に積極的です。町内の福祉施設を見学し、報告しあう時間を定例会に盛り込むなど、常に資質向上を心がけています。



▲施設視察についてグループで話し合いをする

塩尻市洗馬地区民生児童委員協議会



▲前列右から2番目が名取さん

名取さんは昭和50年に転入。退職後、公民館の分館長を務め、60才で民生児童委員になり4期10年目です。いわば住民自治立ち上げの立役者です。「区長も選挙で決めるようになり、組織化したことで事業内容が特定の

洗馬地区は人口約5300人、約1680世帯。段丘になっており、奈良井川が流れ、ワイナリーが点在し、ぶどう、なし、ももなどの産地として知られています。
民生児童委員は7地区で12名内主任児童委員2名。洗馬地区でも一番人口が多い、会長の名取由之さんが住む太田地区は、戦後住宅が増え約7割が転入してきた新住民とのこと。平成13年、太田区行政改革検討委員会が発足、平成16年から市内で初めて住民による独自の住民自治が始動しました。区役員や民生児童委員、福祉協力員、PTA支部長、育成会、公民館、保育園、老人会、ボランティアなどが集まり組織化して、社会福祉協議会とも連携し、事業を整理共同化を行いました。

住民自治が生きるまちで、
高齢者と子供のふれあいを大事に。

役に依存することなく、共同で事業が進められ、誰が役についても能力を發揮しやすくなっている」と名取さん。資金調達についてもバザーを行ったり、行政の助成金などを活用するなど、状況にあわせて事業をマネジメントしています。
特に子どもと高齢者の交流事業としてはPTAと共同で、「繭玉(まゆだま)・やしよま作り」を行い、正月には約100名が集まりました。作った繭玉は、PTAが主催の「三九郎(ごんど焼き)」で、地域の人々と焼きます。こうした活動は洗馬の多くの地区でも行っています。また平成17年から小学校高学年と高齢者が隔年で「防災マップ」作りをスタート。子どもが住んでいる家の周辺のお年寄りや、気軽に立ち寄れる近所の家など、書きのかわいいイラストやユニークなコメント入りで作られており、地域の交流と防災に役立っています。

また地区協議会全体では、障害者施設のお祭りや地元の特産品のレタスを販売、売上金を寄付することも恒例化し、民生児童委員が着実に地域福祉に貢献しています。



▲色とりどりの繭玉を作る子どもたちと高齢者



表紙写真紹介
常念岳

奥常念(2,857m)低い方が前常念(2,661.8m)です。山頂は巨岩が積み重なり付近は花崗岩が風化して白砂です。ここからの展望は360度、大パノラマ、眺めた瞬間からこの山のとりこになってしまいます。

撮影

松本市安曇
民生児童委員(安曇地区)

大野 善章さん

profile

旧安曇村出身。撮影ジャンルは、特にネイチャー。
2001年松本Mウィングでスイスグリーンデルワルト写真展を皮切りに写真展多数。現在、民生児童委員3期目。



表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしているやる民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

ひろば

中信ブロック

全国主任児童委員研修会に参加して

木曽郡上松町民児協

主任児童委員 宮本 昭彦



11月14日から15日にかけて新潟県湯沢町で開催された全国主任児童委員研修会に参加させていただきました。長野県からは私を含め4名の参加でしたが、他の3名の方は女性でした。研修の全参加者は約250名、やはり男性の参加は2割位で、主任児童委員の担い手は女性が中心と改めて思いました。

研修の1日目は厚労省の行政説明、昭和女子大の高橋先生の講演、シンポジウム、そして夜の交流会。2日目はテーマ別研修と、大変盛りだくさんのメニューでした。また必然的に他県の委員と意見交換する機会があり、さまざまな収穫がありました。そんな中で感じたことは「創設から18年以上経過しているにもかかわらず、全国的にまだまだ主任児童委員

という存在が浸透していない」ということでした。しかし、ほとんどの委員が子育てサロンの中心メンバーとして活躍しています。児童虐待は残念ながら年々増加の一途ですが、それを未然に防ぐために、地道な活動を頑張っており組んでいると実感しました。

自分自身は、キャリアばかりが長くなるだけで大した活動ができていませんが、今回の研修で感じたことを少しでも日頃の活動に生かすことができれば、と考えています。

< 講義 >

「児童委員活動の推進と主任児童委員の役割
～関係機関等との連携・協働活動の強化～」

昭和女子大学 教授 高橋 久雄 氏
(全民児連児童委員活動推進部会委員)

< シンポジウム >

「課題を抱える親子や子育て家庭への支援活動の推進
～安心して暮らせるまちづくりについて考える」

南信ブロック

民生委員・児童委員リーダー研修会に参加して

飯田市伊賀良地区民児協

伊藤 力



「指名だから」と単位民児協会長より言われ、何とか事前レポートを提出して12月12日～14日まで、横浜市で開催された研修会に参加した。

1日目。行政説明に続き行われた高崎健康福祉大学・金井 敏教授の基調講演「民児協活動の課題と活動強化方策」では、特に「難局を心から愉快に感じられる人間」になりた

いものだと感じた。ポパイが活躍するときに食べたホウレンソウがいかにか大切かということを久しぶりに思い出した。歯切れの良い講演に「なぜか眠くならないね」と隣の受講者思わず頷いた。その後の宮城県亘理町民児協からの震災時の実践報告は、実に生々しい報告であり、「ご努力に感銘した。

2日目。人権ビデオの上映では、

児童虐待の場面に担当区域内で自ら命を絶つた若い母親の面影が重なっで見えた。午後のグループ討議では活発な議論が交わされたが、今後の活動にどう生かすか大いに悩むところだ。

最終日。堀江全民児連副会長の講義を聴き「人を支えることで自分が支えられている」のだと思った。その思いを胸に、この3日間の研修で学んだことを日常の活動に生かしていきたい。

最後に長野県から参加した長野市の伊藤氏、佐久市の山崎氏、松本市の小林氏と素晴らしい夜景を眺めながら情報交換ができたこと、同じ使命を担う仲間皆さまに感謝して報告とします。



▲グループ討議での活動の洗い出し

北信ブロック

「支え合う心」を大切に

上水内郡小川村民居協

大西 公子

わが村小川村は人口約三千人の小さな村です。

年々少子高齢化が進み、先ごろ発表された「50年後の日本の人口は現在の3分の2に減少し、全人口の4割が高齢者になる」という50年後の日本が、今まさに私たちの村の現状です。年々増えるであろう一人暮らし・二人暮らしの高齢者を目の前にして、地域における民生児童委員の役割の大切さを感じずにはいられません。

私は、1年前主任児童委員を委嘱されました。定例会や研修会・保育園・小中学校の行事等に参加させていただいたものの活動らしい活動はできなかったと反省しています。働く母親が増え子育て支援の重要性を感じる同時に、地域でのかかわり方の難しさも感じています。まだまだ主任児童委員の存在が地域の人たちや村民に浸透していないということを感じています。

常にアンテナを高くし細やかに情報をキャッチすることを心がけてい

ますが、プライベートにどこまで踏み込んでいいのかという戸惑いもあり、活動して行くうえで悩みは数えきれないほどあった1年でした。これからは地域社会やお世話になった方々への恩返しのもりで、地に足がついた活動ができればと思います。「支え合う心」「絆」「結びつき」を大切に、委員としてだけでなく一人の人間として精一杯頑張っていかなければ…。



▲毎月の定例会のひとこま

東信ブロック

地域の歴史と民生児童委員

東御市和地区民俗協

小林 峯雄

私の担当する地域は、昭和40年ごろから土地分譲が始まった1000戸ぐらいの造成地です。私が新築をした昭和48年ごろは50戸ぐらいの入居しかありませんでしたが、その後入居者が増え、昭和60年には区民のより所である公民館も建設され、一つの自治会としての活動が始まりました。しかし、当時まだ民生児童委員は隣の区に委ねていました。わが地域に委員が誕生したのは平成元年で、その陰には一人の老人の並々ならぬ努力がありました。私は、その方の推薦もあり平成16年に委員を委嘱され現在にいたっています。現在の戸数は168戸、人口は約5000人です。ひとり暮らし高齢者は9人、高齢者のみ世帯は19戸、38人、その他同居の高齢者は83人です。高齢化率は実に26%となります。高齢化の進む中、いろいろな問題が出てきますが、区の三役や福祉委員の協力を得ながら活動しています。

地域の高齢者の団体では、花植えやその手入れ・小学生との世代間交

流・新年会・暑気払い・紅葉狩り・忘年会等、年間を通じて多くの行事を行います。私も委員としてまた仲間として積極的に開催に協力したり、参加者として一緒に楽しんだりしています。先日も多くの参加者を得て新年会が盛大に開催されました。これからも、できるだけ多くの顔が見えるよう、皆さんの希望を入れ工夫をしながら楽しく活動していきたいと考えているところです。



▲新年会で盛りあがった老人会

一般社団法人長野県助産師会会長

池上 道子 さん



助産師はみんなの「お母さん」と思ってる相談を

「赤ちゃんが生まれる瞬間に立ち会ったのが大好き」と、笑顔で話す池上さんは、伊那中央病院で助産師として21年間つとめ、多くの出産に立ち会ってきました。その後、「一人一人を丁寧にみて人情味のある助産をしたい」と、平成17年に、伊那市日影の自宅を拠点に「助産所ドゥーラえむあい」を開業しました。妊婦検診・分娩介助、出産前後のステイ、母乳ケア・マッサージ・育児相談などを行っています。また「生命の出前講座」として、保育園から祖父母世代まで多くの講演活動も行っています。

経済状況が悪くなる一方の世の中で「子どもを生み育てる若いお母さんたちは一生懸命」と説明します。あるお母さんはママ友たちを作った、互いに服をリサイクルしてママコートを手

作りしたりと、工夫していると言います。経済的に困っているお母さんたちやキャリアを積む女性が増え、子どもが生後数カ月で働き始め、イクメン(家事や育児を積極的にこなす男性)と言われるお父さんたちが話題になっています。また少子化や核家族化、近所の関係の希薄化で、若い母親たちは孤立しつつあります。

長野県助産師会は平成22年に一般社団法人となり、現在池上さんが会長を務めています。松本市大手に「子育て女性健康支援センター」を設置、毎週火・木・土の午前10時から午後2時まで、電話相談(無料)を受け付けており、予約制で訪問相談(有料)も行っています(TEL0263・31・0015)。「この相談電話だけではなく、妊娠や子育てに悩むお母さんは、いつでも身近な地域の助産師に直接声をかけて欲しい」と池上さんは話します。また今後助産師会では祖父母に向けた「孫育て講座」やいのちの大切さを説明する子どもたちへの性教育にも力を入れていく予定です。

こうしたなかで、「民生児童委員のかたがたに私たちの存在を意識していただき、声をかけてほしい。行政や病院、民生児童委員や助産師が、つながることで、地域全体で子育て支援にかかわることがこれからは大切になっていく」と強調します。地域の助産師さんにぜひ連絡を取って、親子の訪問事業や子育て支援・相談事業の参考にしてみてはいかがでしょうか。(地域での助産師リストについては長野県助産師会ホームページ <http://www.naganomw.net/> または各市町村担当課へ問い合わせを)。



編集委員

リレー日記

諏訪丸光が閉店となり、一年が過ぎました。上諏訪駅前には、そのままで、ひっそりとしています。買い物弱者問題も残念ながら解決しておりません。

諏訪地方のこの冬は、格別に寒い日が続きました。諏訪湖の御神渡りも出来ましたが、あっと、いう間に消えてしまい、なんだか今の世情を現しているような気がしました。

今回の「つなぐ」も災害特集です。災害への準備は、数限りなくあります。

災害が発生した時、48時間以内は、他の助けを期待するのではなく、自助がもつとも大事だと言われ、個人の自覚とともに、隣同士の助け合いもこれに含まれるのではないのでしょうか。

塩尻市洗馬地区の単位民児協では、防災マップづくりを小学校高学年も加わって、実施されています。

私の住んでいる諏訪市は、地盤の弱い地域が多く、地震は必ず起こると言われています。みんなで災害に強い地域づくりに励まねばなりません。

(守屋輝代)